

天子の宴会之処

- 平安宮豊楽院消暑堂・豊楽殿北廊跡の調査 -

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



豊楽殿と消暑堂・北廊の位置

はじめに 中京区丸太町通七本松の交差点の南東約50mのところに「史跡平安宮豊楽殿跡」があります。1987年に発掘調査が行なわれ、豊楽院の正殿である豊楽殿の遺構が良好な形で発見されました。

2007年9月、この豊楽殿跡のすぐ北側で発掘調査が行なわれました。

豊楽院とは 豊楽院は、平安宮に特有のもので、9世紀初頭に造られました。元旦に行なわれる宴会や、弓矢の腕比べなどの節会、穀物を神に捧げる新嘗祭、外国か

ら来た使節をもてなすことなどが行なわれていました。

また、天皇が即位した後には、ここで数日間にわたり大嘗祭が行なわれ、『西宮記』にあるように、まさに「天子宴会之処」として使用されています。その後、儀式の整備にともない、大嘗祭以外は内裏などの他の施設で行なうことになり、康平六年(1063)に焼失した後、再建されませんでした。

消暑堂・豊楽殿北廊跡 今回の調査場所は、豊楽院の中で消暑堂と、豊楽殿北廊跡にあたります。

消暑堂は、豊楽院で宴会が行なわれる際、天皇の控えの間として使用され、渡り廊下である北廊を通じて豊楽殿に向かったのです。

調査の結果、消暑堂では、基壇盛土、基壇の化粧である凝灰岩を抜き取った跡、南面の西階段を構成する凝灰岩を確認しました。基壇盛土は、約30cm残っていました。階段の凝灰岩は、延石と踏石の1段目が見つかりました(図1)。

延石の大きさは長さ92cm以上、幅35~37cm、厚さが18~20cmで合計5石確認できました。踏石は長



写真1 手前が延石・奥が踏石（西から）



写真2 礎敷と北廊（西から）

さ95cm、幅40cm、厚さ31cmで、1石しか残っていません。延石と踏石は組み合わせられた状態で見つかりました。階段の幅は約5.2m、張り出しは約1.5mです（写真1）。

北廊では、基壇盛土は良好に残っており、幅は最大で約13m、厚さ約60cmあります。しかし、北廊の築かれた順序を調べたところ、北廊は一度に築かれたのではなく、

2回にわたって拡幅されていることがわかりました。豊楽殿の調査でも見つかった屋根から落ちる雨水を受ける^{せんじき}礎敷も見つかります（写真2）。

また、北廊の下層からは、幅6m以上、深さ1.8m以上ある旧地形の谷が存在していることがわかり、谷を埋めた土は一度に入れられていました。

まとめ 基壇の凝灰岩を抜き取った跡が見つかったことで、清暑堂の基壇南端と西端が明らかになりました。それにより、基壇の東西幅が約35mで、清暑堂と豊楽殿をつなぐ北廊の長さが約30mであることがわかりました。階段の幅は、豊楽殿と同じ約5.2mであることから、意識して階段幅を合わせたものと考えられます。

また、北廊の下層からみつかった谷は、豊楽院を造る際に埋められていました。清暑堂は谷を避けて造られており、豊楽殿と清暑堂の建物配置が、旧地形を考慮して造られたことがわかりました。

今回の調査で見つかった遺構は、その重要性から保存することとなり、2008年に史跡に指定される予定です。

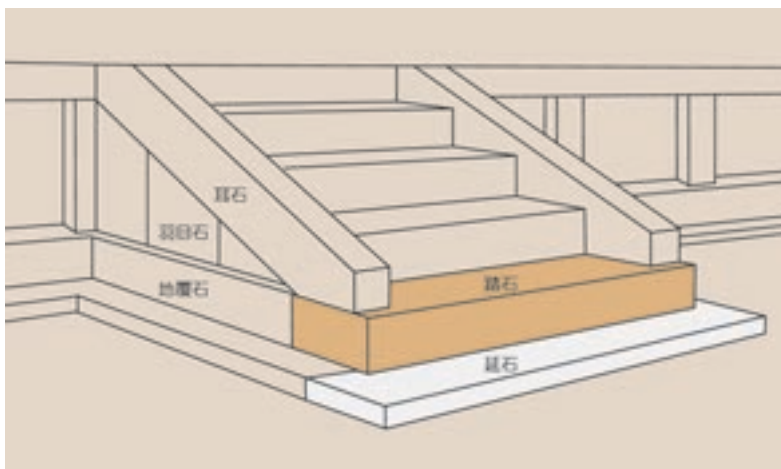


図1 階段の模式図

（西森 正晃）